

小学生の住まいにおける整理・整頓に関する考察

Tidiness and Orderliness in the Family Life of Primary School

Children

千森 督子 嘉本 知子 東口 依未

Tokuko Chimori Tomoko Kamoto Emi Higashiguchi

要 約

家庭科は学習内容を実践的・体験的に行っていく必要があるために、本稿では、小学校で家庭科を学ぶ5年生と6年生が住まいの整理、整頓や不用品の活用をどの程度実行しているかを検証した。最も整理整頓が行われているのは身近な学習用具に関してで、次いで、学習している部屋であり、比較的学習環境は整理整頓している。最も実行されていないのは、起床時の布団の整頓である。いずれの項目でも学年別には6年生の方が5年生より実行し、男女別には女子の方が実行している。整理整頓の工夫経験は半数近く有り、「物の分類と空間の工夫」が半数を占める。児童の過半数が不用品の活用経験が有り、小学校3年生から6年生の間に多くが体験している。「再使用」が最も多く、次が「再生利用」である。

はじめに

小学校の家庭科では住まいの整理、整頓や不用品の活用に関して学習する領域がある^{1),2)}。学習内容は実践的・体験的な活動に繋いでいく必要があり、とりわけ、学んだ内容が実際の家庭生活でどの程度実行されているかは、検証に値する。

そこで、本稿では、住まいにおいて児童が生活の整理、整頓をどの程度行っているのか、不用になった物を生かす工夫を実行しているのかを明らかにし、児童の生活力を把握することを目的とする。

方法

研究方法は、選択肢を主とした質問紙法を用い、その調査結果を考察する手法をとる。

対象の小学生は、家庭科学習学年の5年生と6年生とし、和歌山県でも紀の川中流域の伝統的な農村地域に位置する、紀の川市立粉河小学校の児童である。

有効回収率は、5年生 97.9% (在学生 48 名中 47 名)、6年生 100% (在学生 43 名中 43 名)、合計 98.9% (在学生 91 名中 90 名) である。

調査年月日は、平成 29 年 11 月 30 日である。

結果及び考察

1. 住まいにおける整理・整頓

第1章では、児童が住まいにおいて生活の整理・整頓をどの程度実行しているのかを考察する。学習指導要領³⁾に従い児童の身の回りの生活として住生活のみならず衣生活をも交えて考察する。

項目としては、(1)脱いだ靴の整頓、(2)脱いだ服の整頓、(3)起床時での布団の整頓、(4)学習機の整理整頓、(5)ランドセルや教科書、ノートの整頓、(6)学習している部屋の整理整頓、(7)整理整頓での工夫の7項目であり、項目別に考察する。

(1) 脱いだ靴の整頓

脱いだ靴を揃えることに関しては、「している」は 61.6%あり、「時々している」(34.4%)を入れると 95.5%と大半を占める。反対に「していない」は 4.4%と少数である(図1)。

概して日常生活ではかなり実行し、過半数は習慣化しているといえる。日本独特の生活様式である、玄関で履物を着脱し、揃える行為を児童が実行するのは、家庭教育に因るところが大きいと考えられる。

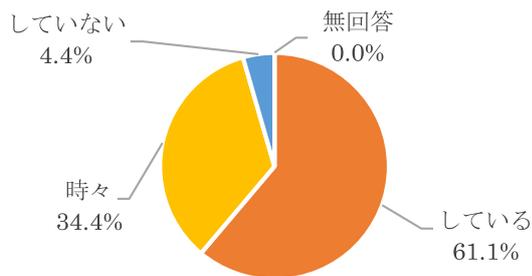


図1 脱いだ靴の整頓

学年別に検討すると、5年生より6年生の方が、脱いだ靴を揃えている割合が高く、「していない」とするのは、皆無であった(図2)。

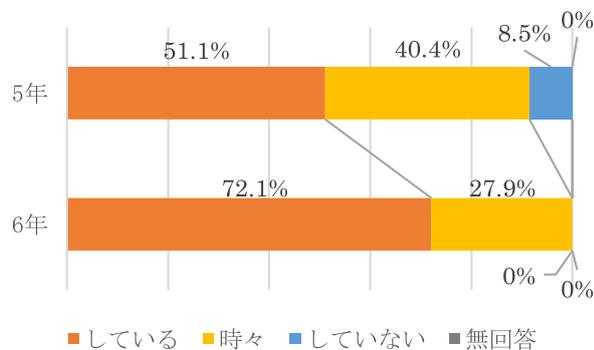


図2 脱いだ靴の整頓(学年別)

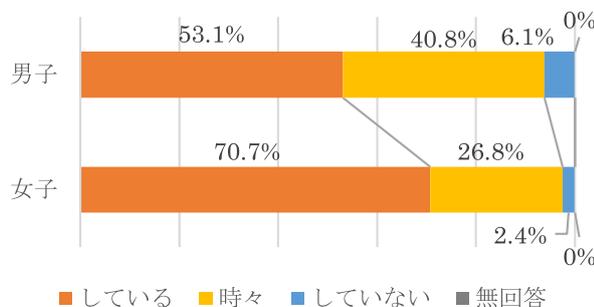


図3 脱いだ靴の整頓(男女別)

また、男女別に考察すると、「している」のは、女子が 70.7%あり、男子の 53.1%と比較すると 17.6%も高い。そのために、女子の方が実行しており、性別に違いがみられる(図3)。

(2) 脱いだ服の整頓

脱いだ服の整頓に関しては、「整頓している」(57.8%)が過半数を占め最も多く、次に、「時々整頓している」(31.1%)である。「整頓していない」は 11.1%しかみられない(図4)。

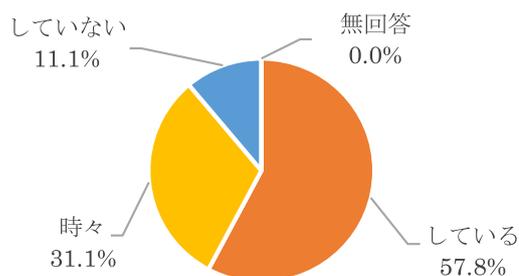


図4 脱いだ服の整頓

学年別には、6年生は「時々している」も含めると「整頓している」が 97.6%あり、「整頓していない」のはわずか 2.3%である。5年生は「時々している」も含めると「整頓している」が 80.8%で、「整頓していない」のは 19.1%である。

そのために、5年生より6年生の方が整頓している傾向にある(図5)。

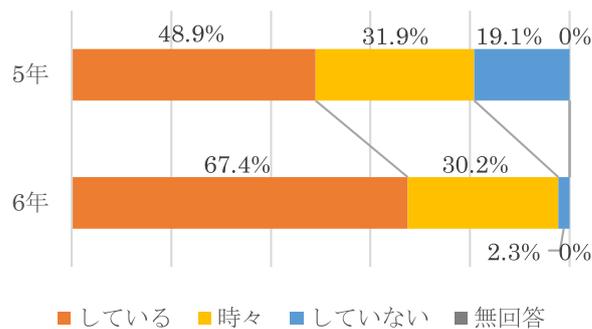


図5 脱いだ服の整頓(学年別)

男女別に考察すると、「整頓している」割合は、女子が 75.6%であるに対して男子は 42.9%と 32.7%低い。「時々している」は男子が 42.9%、女子は 17.1%なので、男子は「時々している」割合が高い。「整頓していない」のは男子 14.3%、女子 7.3%みられ、総じて男子より女子の方が実行している(図6)。

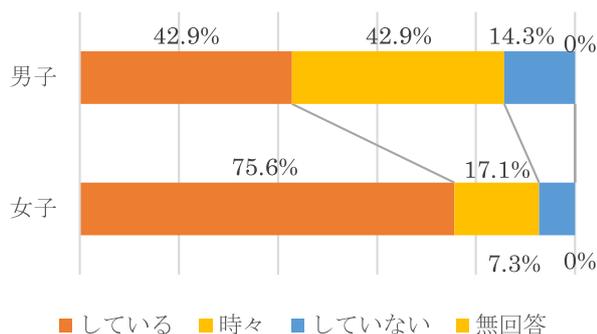


図6 脱いだ服の整頓(男女別)

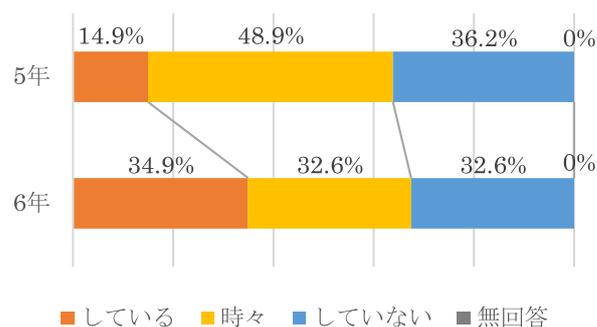


図8 起床時での布団の整頓(学年別)

(3) 起床時での布団の整頓

起床時での布団の整頓に関しては、「時々整頓している」(41.1%)が最も多く、ついで「整頓していない」(34.4%)である。「整頓している」は24.4%と最も少ない。そのために、起床時での布団の整頓に関しては、日常的にはあまり行われていない傾向にある(図7)。

このような傾向は、整頓や布団の上げ下ろしが必要な和式からベッドを用いる洋式の就寝様式が主になっているため、あるいは、朝の登学前という時間的な余裕のなさや、対象物の大きさ、家庭教育にも要因があると考えられる。

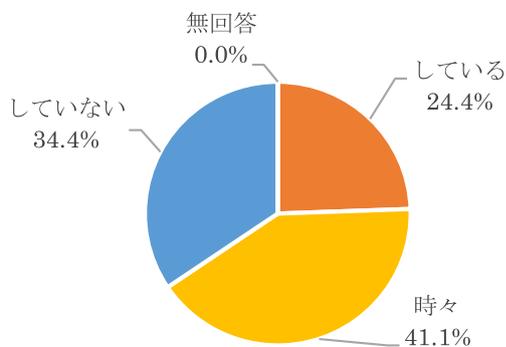


図7 起床時での布団の整頓

学年別には、6年生は「整頓している」(34.9%)が最も多いが、「時々している」(32.6%)、「整頓していない」(32.6%)も大差ないために、分散しているといえる。一方、5年生は「整頓している」は14.9%しかなく、「時々している」が48.9%と最も多く、次が、「整頓していない」(36.2%)である(図8)。

そのために、全体的には6年生は5年生より起床時での布団の整頓をしているといえる。

男女別に考察すると、「布団を整頓している」のは男子が20.4%に対して女子は29.3%で大差はないが、「布団を整頓していない」のは男子が42.9%に対して、女子は24.4%で、男子は女子の約2倍ある(図9)。概して、女子の方が布団を整頓している傾向にある。

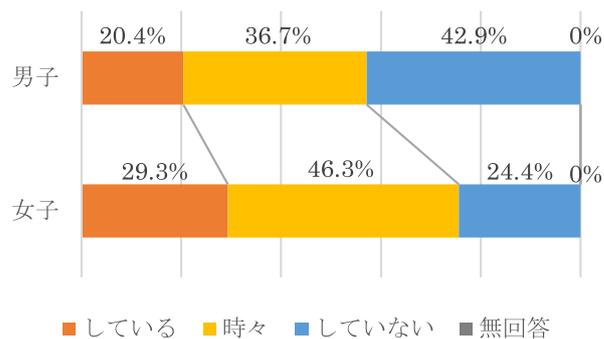


図9 起床時での布団の整頓(男女別)

(4) 学習機の整理整頓

最も身近な学習環境である学習機の整理整頓に関しては、「整理整頓している」が53.3%と過半数を占め、「時々している」(27.8%)も含めると8割になる。

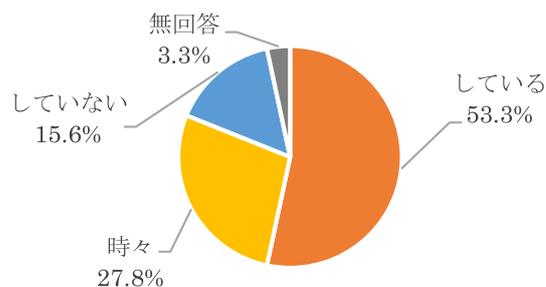


図10 学習機の整理整頓

そのため、学習機の整理整頓は大部分が行っているが、「していない」とする児童も 15.6%ある(図 10)。学習機は家庭科の教科書⁴⁾でも具体的に取り上げられている整理整頓の対象であるが、引き出しも多く、小物などもたくさんあるために小学生にとっては整理整頓がしにくいのではと考えられる。

学年別に考察すると、「整理整頓している」のは6年生では 58.1%に対して5年生は 48.9%で、「時々している」は、6年生が 30.2%、5年生は 25.5%である。「していない」は6年生が 11.6%、5年生は 19.1%である。概して、6年生は5年生よりやや実行している傾向にある(図 11)。

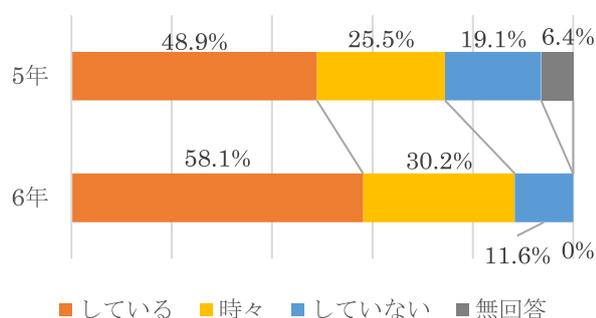


図 11 学習機の整理整頓(学年別)

男女別に考察すると、「整理整頓している」のは女子が 61.0%、男子が 46.9%であり、女子の方がしている割合が 15%程高い。また、「整理整頓していない」は男子が 24.5%であるに対して、女子は 4.9%と少数である(図 12)。

概して、女子の方が実行している傾向にある。

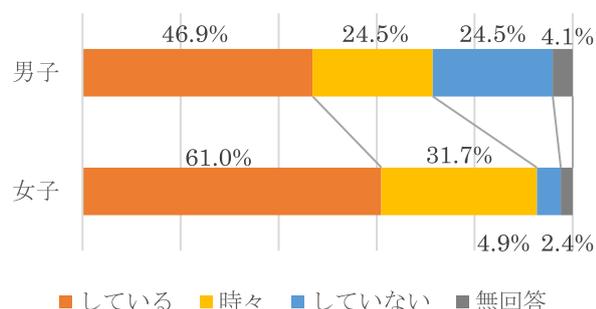


図 12 学習機の整理整頓(男女別)

(5) ランドセルや教科書、ノートの整頓

学習用具である、ランドセルや教科書、ノートの整頓に関しては、「整頓している」とするのは 76.7%あり、「整頓していない」は 8.9%と少数である(図 13)。

これらから、身近な学習用具に関する整頓は家庭生活では高い割合で実行されていることがわかる。

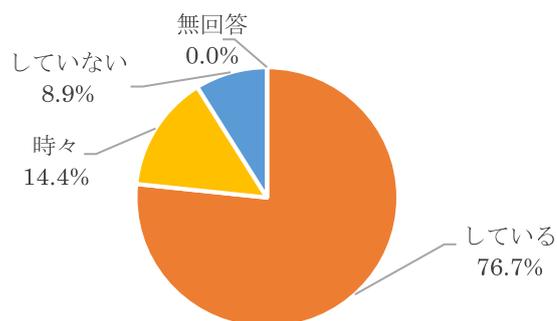


図 13 ランドセルや教科書、ノートの整頓

学年別に考察すると、「学習用具を整頓している」割合は、6年生の 79.1%に対して、5年生は 74.5%であるために大差はないが、「整頓していない」は6年生が 4.7%に対して5年生は 12.8%であることから、6年生の方がやや整頓している(図 14)。

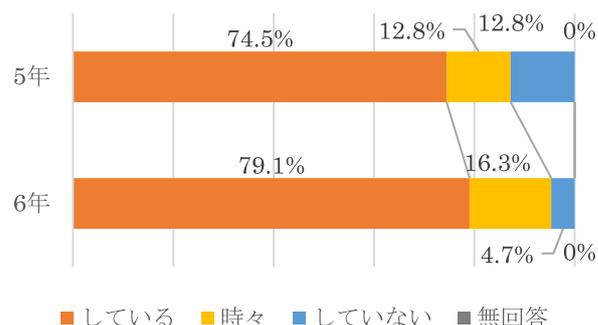


図 14 ランドセルや教科書、ノートの整頓(学年別)

男女別に考察してみると、「学習用具を整頓している」のは、女子が 85.4%あるが、男子は 69.4%である。反対に、「整頓していない」のは女子が皆無であるが、男子は 16.3%ある(図 15)。

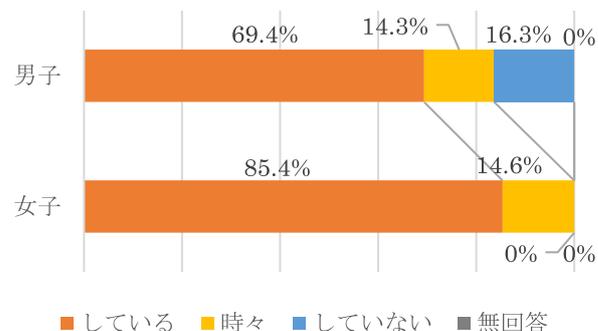


図 15 ランドセルや教科書、ノートの整頓(男女別)

これらのことから、女子の方が「整理している」傾向にあるといえる。

(6) 学習している部屋の整理整頓

学習している部屋の整理整頓に関しては、「整理整頓している」のは全体で 62.2%あり、反対に「整理整頓していない」とするのは 12.2%と少数である。

これらから、最も身近な学習環境である学習している部屋の整理整頓率は、かなり高いことがうかがえる(図 16)。

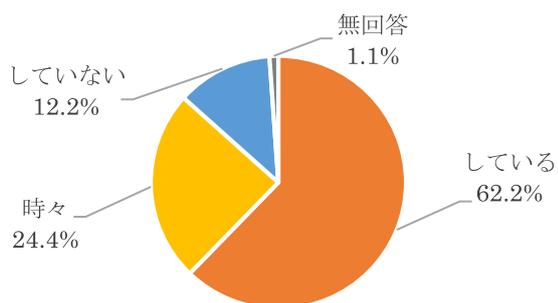


図 16 学習している部屋の整理整頓

学年別には、6年生では「整理整頓している」が 62.8%、5年生では 61.7%と大差ないが、「整理整頓していない」は6年生が 9.3%に対して5年生では 14.9%あり、やや6年生の方が実行している傾向にある(図 17)。

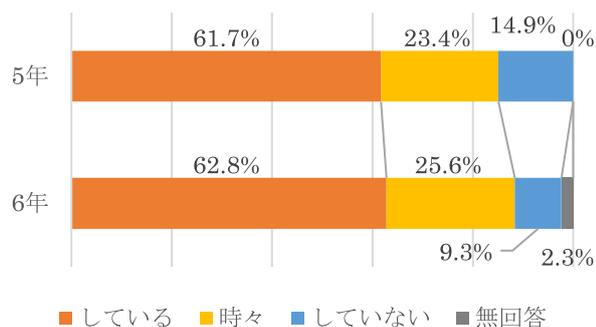


図 17 学習している部屋の整理整頓(学年別)

男女別に考察すると、「整理整頓している」のは、男子 61.2%に対して女子は 63.4%と同程度である。一方、「整理整頓していない」は男子 16.3%に対して女子は 7.3%であり、男子は女子の2倍ある。やや女子の方が整理整頓している傾向にある(図 18)。

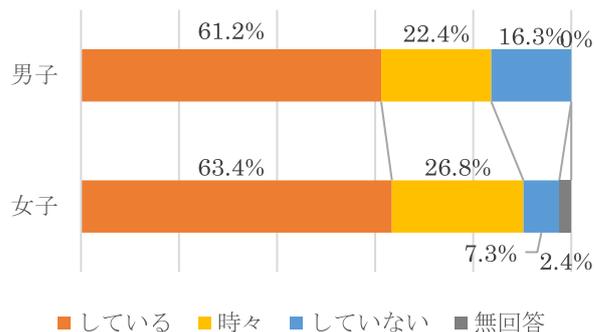


図 18 学習している部屋の整理整頓(男女別)

(7) 整理整頓での工夫

整理整頓での工夫の有無に関しては、「ある」は 54.4%と過半数を占めているが、「ない」も 44.4%あることから、大きく二分しているといえる(図 19)。

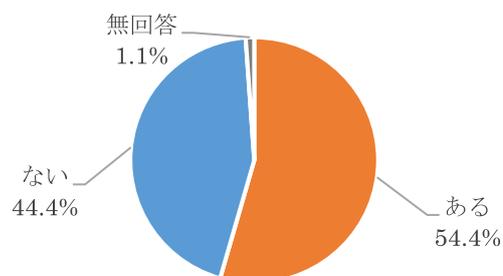


図 19 整理整頓での工夫

学年別にみると、6年生は「ある」とするのが 67.4%みられ、「ない」(30.2%)の倍以上が経験している。5年生は「ある」が 42.6%で、「ない」(57.4%)より逆に少ない。

そのために、6年生の方が整理整頓での工夫を経験しているといえる(図 20)。

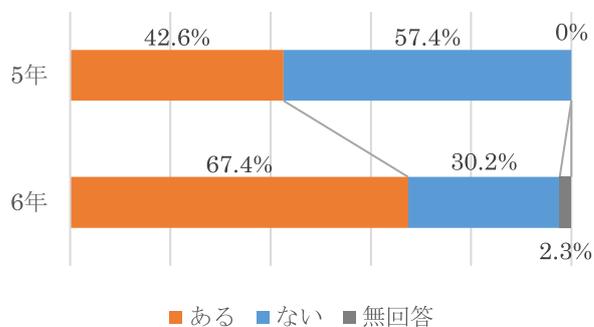


図 20 整理整頓での工夫(学年別)

整理整頓での工夫の有無を男女別に考察すると、女子では56.1%が「ある」としているが、男子は34.7%と2割程少なく、男女による差異がみられる(図21)。

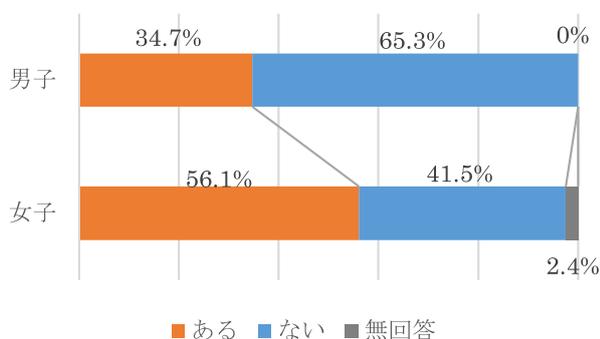


図21 整理整頓での工夫(男女別)

具体的な工夫を自由記述方式で回答してもらうと40の回答が得られた。それらを分類すると、「物の分類の仕方と空間の工夫」(20)、「物の分類の仕方」(10)、「空間の工夫」(6)、「その他」(4)に分けられる。

「物の分類の仕方と空間の工夫」では、「よく使用するものは手前に、あまり使わないものは奥に収納」、「収納物を分類し、箱別に収納」、「大切なものは鍵のかかる場所に収納」、「分類した上で収納場所を決めて、記録」などがあげられている。「物の分類の仕方」では、「使用するものと使用しないもの別」、「大きなものと小さなもの別」、「小分けする」、「種類別」などである。「空間の工夫」では「ダンボールを仕切り板として活用」、「袋やダンボールを活用して収納」、「本を立ててスペース確保」、「場所を決める」などである。その他に、「記憶方法に関する工夫」、「廃棄する」等が少数ではあるが、あげられている。

整理整頓・不用品の活用の単元は、5年生も6年生もすでに学習している。しかし、(1)から(7)の各項目に関して、学年別にみると6年生の方が実行している傾向がある。年齢と共に生活力が身に付いてきているのか、あるいは、男女別では女子の方が実行度が高いことから、在学生の男女比率による対象校の特性に因るとも捉えられる。6年生は男子22名、女子21名と比較的バランスがとれているが、5年生は男子30名に対して、女子は18名と大差があり、女子が少ないために実行度が低い可能性も考えられる。

2. 家庭で要らなくなった物を生かす工夫

ごみを減らす工夫として、「むだを減らす」(Reduce)、「再使用する」(Reuse)、「再生利用する」(Recycle)の3要素があり、各々の頭文字をとり「3R」と称されているが、物を生かして使う工夫はごみを減らすことにもつながる。児童にとって最後まで物を使い切り、必要でなくなった不用品を活用する体験は、将来の物との関わりやごみの削減にも繋がる大切なことである。

そこで、第2章では、「不用品を生かす工夫の有無」と「実行した年代」、「実行した内容」について検討する。

(1) 不用品を生かす工夫の有無

不用品を生かす工夫体験に関しては、「ある」(53.3%)が過半数を占めているものの、「ない」(45.6%)とは大差なく、ほぼ半々である結果が得られた(図22)。

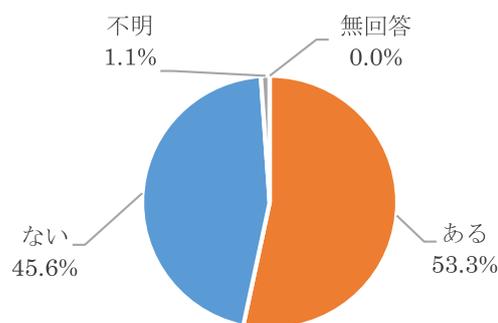


図22 不用品を生かす工夫の有無

一方、学年別にみると、5年生は「ある」(42.6%)が「ない」(55.3%)より少ないが、6年生は「ある」(65.1%)が「ない」(34.9%)の2倍近くを占めている(図23)。そのために、6年生の方が実行している傾向にある⁵⁾。

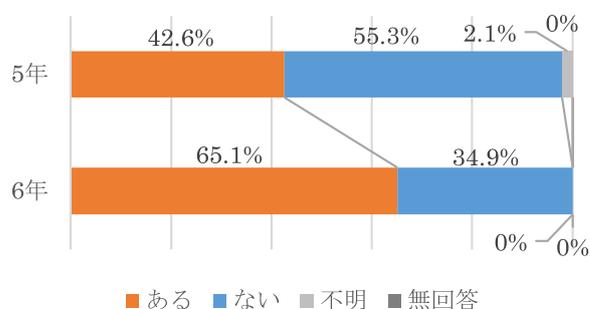


図23 不用品を生かす工夫(学年別)

(2) 実行した年代

不用品を活かす工夫は、「小学校以前」に実行したのが15%みられる。しかし、最も多くが実行した年代は、「小学校3・4年生」(35.4%)と「小学校5・6年生」(33.3%)であり、この年代に偏りがみられる(図24)。

不用品活用の体験年代が「小学校3・4年生」が多いのは、社会科の「住みよいくらしをつくる」の単元で「ごみのしまつと活用」が取り上げられている⁶⁾ことが要因のひとつだと考えられる。一方、「小学校5・6年生」は家庭科で「家庭で要らなくなった物を生かす工夫」⁷⁾の単元が取り上げられているために、実行するきっかけになったと推測される。

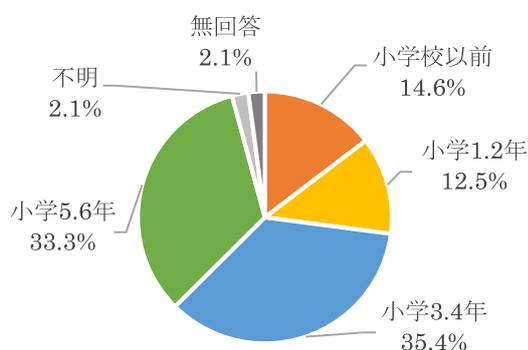


図24 実行した年代

(3) 実行した内容

実行した内容では、「再使用」が73.1%と最も多く、次に、「再生利用」が13.5%である。「譲渡」、「転売」は少数である(表1)。「再生利用」が行われた素材は、「牛乳パック」や「布」が大半である。ついで、「ペットボトル」であり、「ビン」、「缶」、「ダンボール」なども少数みられる。

内容では学年による偏りはないが、材料、特に布では、5年生1人に対して6年生が10人と差異がみられる。6年生は布を用いた活用をしたことに因ると推測される。

表1 実行した内容

再使用	38 (73.1%)
再生利用	7 (13.5%)
譲渡	1 (1.9%)
転売	1 (1.9%)
その他	5 (9.6%)
合計	52 (100.0%)

まとめ

1. 整理整頓に関する項目の中で最も実行しているのは、「ランドセルや教科書、ノートの整頓」であり、身近な学習用具に関する整頓は8割が実行している。「学習している部屋の整理整頓」は6割が実行している。しかし、学習機の整理整頓は、5割と学習している部屋よりも低い結果であった。児童にとっては最も身近な家具であるために、検討課題と考えられる。

最も実行していないのは、生活様式とも関係しているためか、「起床時の布団の整頓」であり、2割程度しか行っていない。

2. 整理整頓に関して、学年別に考察すると、6年生の方が5年生よりいずれの項目でも実行している傾向にある。

3. 男女別傾向に関しては、「学習している部屋の整理整頓」の様に大差のないものもあるが、何れの項目でも女子の方が整理整頓をしていることが把握された。とりわけ、「脱いだ服の整頓」は女子の7割が実行しており、男子より2割以上も多い。「ランドセルや教科書、ノートの整頓」では、「していない」とする女子は皆無であった。男女共修で家庭科を学習しているが、実生活では性別による違いがみられる。

4. 「整理整頓での工夫」に関しては、半数近く経験が有る。経験した具体的内容は、「物の分類と空間の工夫」が半数を占め、その他に、「物の分類」、「空間の工夫」、「片付け方」、「記憶の仕方」、「廃棄」があげられていた。

5. 「家庭で要らなくなった物を生かす工夫」に関しては、過半数が「ある」としている。実行した年代は、「小学校3・4年生」と「小学校5・6年生」に偏りがみられることから、この年代に体験している児童が多いといえる。具体的な内容は、「再使用」が最も多く、次に「再生利用」である。「譲渡」、「転売」は少数である。再生利用の素材としては、牛乳パックや布がとりわけ多く用いられている。

文献および註

- 1) 文部科学省: 小学校学習指導要領解説 家庭編, pp.48-50, 2008
- 2) ①渡邊彩子監修: 文部科学省検定済教科書 小学校家庭科用 新しい家庭 5・6, 東京書籍株式会社, pp.44-51、

2016

②内野紀子他: 文部科学省検定済教科書 小学校家庭
科用 わたしたちの家庭科 5・6、開隆堂出版株式会社、
pp.25-29、2016

3) 前掲1) p.49

4) 前掲2) ①pp.44-45、②p.25

5) 粉河小学校では、6年生は3R の学習が既習であった
ことも差異に影響していると考えられる。

6) 池野範男他: 小学社会 3・4 年下、日本文教出版株式
会社、pp.18-39、2016

7) 前掲2) ①pp.50-51、②pp.28-29